

## 1 自己評価

- I 評価結果（別紙参照）
- II 分析・改善方策（別紙参照）

## 2 学校関係者評価委員名

岡崎 正和（学校評議員）	深井 実佳（学校評議員・PTA役員）
金田ゆかり（学校評議員）	久保美沙子（PTA役員）
畦 浩二（学校評議員）	辻 美奈（PTA役員）
猪木 健二（学校評議員）	三好 ゆみ（PTA役員）

## 3 学校関係者評価

コロナ禍において実施できなかった行事も多いことから、年度途中で評価基準の見直しがあっても良かったのではないかと。来年度も対外活動に制限があることを想定し、目標設定・評価基準の見直しが必要と考える。

その中でICTを活用し、授業動画作成や外部講師による講座開催を進めた機動力は高く評価できる。ICTを活用した授業スタイルを確立していく時代になっており、いかに効果が上がるか、いかに実質化していくかという観点から、学習スタンダードだけにとらわれず生徒の身になる活用方法の研究を組織的に進めてほしい。

探究活動は、生活や地域の中の課題を発見し解決方法を考え実践から次の課題を探究するプロセス（PBL）が大切で、生徒が問題意識を持てるような展開を期待する。

生徒の防災意識向上と行動変容にぜひ取り組んでほしい。従前のルール下での防災訓練だけではなく、コロナを前提にした3密を避けた訓練、地震で帰宅できない場面への対応など、新しい訓練の在り方を検討してはどうか。

## 4 来年度の重点取組

各教科の学習スタンダードを基に「学校教育活動全体で育成したい資質・能力」を意識した取組を深化させるとともに、教科横断的あるいは社会との関連を意識した取組に焦点を当て、生徒が気づきを得られる場面を学校全体で一つでも多く用意する。その手段としてICT活用を多角的に試行し、生徒自身が自己変容を振り返るとともに将来を意識できるような、従来の紙媒体とICTの利点を双方活かせる使い方を検討する。また、スクールポリシーの策定段階で学校経営計画の骨格の見直しを進める。

令和2年度 岡山芳泉高等学校 学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組

①様々な場面での経験を振り返り、より豊かな人生を目指して行動する力

手立て	担当	具体的方策	昨年度までの状況(課題)と改善の方向性	評価Aの基準	中間期取組結果	中間評価	最終取組結果	最終評価	結果の分析及び改善策
保護者・地域等との連携による体験的な活動の充実	総務課	・生徒が、グリーンクリーン大作戦に積極的に参加し、保護者、地域の方と連携して、奉仕活動に取り組むよう働きかける。	・参加動機が「芳泉まごころボランティアの一つであるから」と回答している生徒が70%弱あり、必ずしも積極的な動機ではないことがうかがえるが、実際の清掃活動に対しては、「他者と協力し、主体的に清掃活動を行うことができた」と回答した生徒が70%程度あり、主体的に活動できたと考えられる。 ・主体性を高めるために、生徒が見通しをもって参加できるような方策を検討する。例えば、事前打ち合わせに参加する、地域からの良い評価を紹介する、等が考えられる。	・行事終了後のアンケートにおいて、生徒が積極的に関わったという回答が75%以上となる。	・グリーンクリーン大作戦は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止せざるを得ず、実施できていない。 ・清掃活動については年次ごとのLHRにて予定されている。	B	・グリーンクリーン大作戦は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止せざるを得ず、実施できていない。 ・清掃活動については年次ごとのLHRにて実施した。	B	・今年度については外部と対面で交流することが難しかったため、行事の中止はやむを得なかった。主体的な清掃活動への参加については、通常の清掃でも取り始めるので、保健安全課と連携しながら進められれば良いと考える。  【評価委員】 この項目だけではなく、コロナ禍において実施できなかったことも多いことから、年度途中で評価基準の見直しがあっても良かったのではないかと。 来年度も対外活動に制限があることを想定し、目標設定・評価基準の見直しが必要と考える。
	生徒課	・外部団体、地域(区役所、連合町内会、公民館)と協力して、社会と連携した活動の情報を提供する。また、年間の目安や過去の事例を示し、計画的な参加を促す。	・地域社会との活動を維持する。 ・特に、1年次生が計画的に参加できるように案内する。 ・参加するだけでなく、協働内容の計画にも参加させる。	・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合 「社会貢献活動を通じて自分の成長を感じ、満足できた」80%以上 ・社会貢献活動への参加 1年次：年3回以上参加60%以上 2年次：通算5回80%以上	・学校アンケートの結果は今後実施されるので年度末に。 ・外部との協働による「社会貢献活動」は実施できていない。 ・校内での「マスク作りボランティア」などを新設し呼びかけているが、限りがある。また、校内一斉清掃も4月段階で保健安全課と共にすすめているが限りがある。状況を見ながら呼びかけていく。	B	・今年度、自主的な貢献活動は、ほとんどできていない。LHRで行った「清掃活動」、有志で行った「マスクづくり」など。 ・「マスクづくり」は募金活動、制作、配布先選定まで参加生徒が行った。外部から高評価を得ている。	B	・「すること」よりも、「前後の変化」に着目したい。今後の状況によるが、外部との連携が困難な場合は、校内での活動の「前後の変化」も定期的に記録し、「自己評価」させたい。外部活動が困難な場合でも、人間的な成長や変化を感じることにつなげたい。
生徒自身が自らの成長を振り返るポートフォリオの指導と活用	進路指導課	・ポートフォリオを入試出願書類に生かす	・ポートフォリオの電子化の研究を行った。	・ポートフォリオを入試出願書類に活用するまでの、3年間を通じた指導の流れを作成できた。	・土曜講座参加希望などポートフォリオ記載事項の蓄積にG-suiteを活用する機会を増やした。 ・3年間通じてのデータ活用の流れについて教務課と連携しながら進めていく。(指導要録作成)	B	・3年間通じてのデータ活用の流れが作成できた。 ・必要なデータが書類作成時に不足していたり、データを作成時にうまく活用出来ていないケースがあった。	B	・低学年次からの指導内容を見直す。 ・入試出願書類の分析を行い、必要な項目を洗い出す。
	1年団	・校内外の活動をポートフォリオにまとめ、活動の振り返りに活用することで自らの成長につなげる。 ・進路手帳メモリーを活用させ、自己管理能力を高められるよう促す。		・活動をポートフォリオにまとめ、電子データ化して活用できた。 ・日々の予定や活動をメモリーに書き込み、自己管理に活用できた。	・新型コロナの影響により、校内外の活動が制限される中ではあるが、ZOOMなどを活用して、オンライン上の講演会などに積極的に参加し、ポートフォリオを作成している。google formを通して、現在約1700件のデータが収集されている。今後はこのデータを使用して半期の振り返り、および後半の計画作成をする予定である。メモリーについては、G-suiteの普及によりやや使用頻度が減っており、今後の活用法と指導については再考する必要がある。	B	・参加した講座や講演会の活動をポートフォリオにまとめ、前期と年度末の振り返りに活用して電子データ化できた。 ・進路手帳メモリーの活用について、Gsuiteの利用が普及したため、使用頻度が減った。	B	・新しい調査書に対応できるよう、効率的な活動記録の残し方を考える必要がある。  【評価委員】 生徒が振り返りを確実に記録し、将来を意識できるように、メモリー(紙媒体)とG-Suite(web)の利点を双方活かせる使い分けを検討してほしい。
	2年団	・生徒にポートフォリオ作成を促し、面談や進路指導に生かすための研究を行う。 ・進路手帳メモリーや掲示板を活用し、自己を管理する習慣の定着を図る。	・公開講座など様々な活動に参加し、ポートフォリオを活用し、振り返りや研究を進める。 ・メモリーや掲示板を活用することで、自己管理する意識を高める。	・ポートフォリオやメモリー等の活用を主体的に行うことで、自己管理ができるようになった。	・オンラインでのオープンキャンパスや講演会に積極的に参加し、ポートフォリオにまとめ、進路選択の準備を進めた。	B	・webでのオープンキャンパスや公開講座に参加し、具体的に進路への意識を高めることができた。	B	・活動の記録(データ)が、効率よく調査書等に反映できるよう研究が必要である。
	3年団	・教員はポートフォリオを面談や進路指導に生かし、生徒はこれを学校推薦型選抜・総合型選抜の志望理由作成等に生かす。	・昨年度までにポートフォリオのデジタル化が進んでいるので、今まで以上に各志望学部の指導や志望理由書等の作成に活用できるようにする。	・4月中旬までに、生徒自身がgoogle formを利用して入力したデータを、各クラスごとに整理・提示ができた。 ・推薦入試等の志望理由作成や面接にデータを有効活用しながら指導できた。	・google formを利用して入力したデータを、担任が面談や調査書作成で有効に活用できた。	B	・google formを利用して入力したデータを、担任が面談で有効に活用できた。 ・生徒の進路のこだわりや推薦の意思確認などgoogle formで一覧にすることで学年全体で情報を共有することができた。	B	・新しい調査書の書き方とチェック方法について、教務課・進路課と協議し、効率的な方法を考える必要がある。
	高大接続推進委員会	・振り返りに着目した教材に即して生徒がポートフォリオを作成する。	・生徒が自らの学習を振り返ってまとめている。(主体的な学習)	・学習の振り返りと将来を結びつけて考えられるようになる。(学習の振り返りとしての自己推薦書が書ける生徒が80%以上になる。)	・新型コロナのため授業日数が確保されず、ポートフォリオにつながる学習よりも教科学習が優先された。そのため計画通りに進まず、学習の振り返りとしての自己推薦書の取組ができていない。その一方で、ZOOMなどを活用した外部講師による講座を6～7月で12講座開催しており、延べ数500名強の生徒が参加している(全校生徒947名)。これらの講座では学習を振り返るワークシートを各自が作成している(全校生徒947名)。これらと併せて年度末で学習の振り返りかえりが十分できると考えている。しかし、当初の計画どおりに、生徒が将来と結びつけられるほどの具体性のある振り返りにはならなかった。	B	・「総合的な探究の時間」を進めることで、学習の振り返りをふくめて進路を意識した学習を進めることができた。また、zoomなどを活用した外部講師による講座を12月まで30講座開催しており、延べ数1100名強の生徒が参加した。(全校生徒947名)。これらの講座では学習を振り返るワークシートを各自が作成している(全校生徒947名)。これらと併せて年度末で学習の振り返りかえりが十分できると考えている。しかし、当初の計画どおりに、生徒が将来と結びつけられるほどの具体性のある振り返りにはならなかった。	B	・社会と関わりを強く意識できる探究学習のカリキュラムを研究する。

②対話や議論を通じ、多様な人々と協働する力

手立て	担当	具体的方策	昨年度までの状況(課題)と改善の方向性	評価Aの基準	中間期取組結果	中間評価	最終取組結果	最終評価	結果の分析及び改善方策
教科スタンダードに基づくアクティブ・ラーニング型授業の実施	教務課	・授業アンケート、及び研究授業についての教科会議を実施する。 ・教員自己評価アンケートに教科スタンダードに関する項目を設定する。 ・図書の出貸だけでなく、インターネット検索、生徒間の交流による情報収集の場としての図書館利用を促進する。 ・カルチュラルラーニングを通して自発的な行動を促す。	・各教科で学習スタンダードを意識した授業づくりの実践研究を開始した。 ・図書館貸出冊数は生徒一人あたり年間7冊前後である。また、図書館での授業は年間150時間強である。 ・カルチュラルラーニング参加者が県立美術館・県立博物館・岡山地方検察庁・県立図書館でのべ40名の参加があった。リピートすることで興味関心を深める。	・前期、後期各1回以上授業アンケート及び研究授業についての教科会議が実施された。 ・学校アンケート(教員)の学習スタンダードに関する項目で肯定的回答の割合が80%以上となる。 ・生徒一人あたりの1月末までの図書の出貸冊数が7.5冊以上となる。 ・図書館を利用した授業が年間180時間以上となる。 ・カルチュラルラーニング参加者がのべ50名の参加がある。かつ新規だけでなくリピートの者の割合が半数以上になる。	・授業アンケートは7月に実施。研究授業は11月の芳泉コミュニケーションデーを中心に実施予定である。 ・教員自己評価アンケート「学習スタンダードを意識して、授業づくりを行っている」への肯定的回答…77.0% (昨年度同時期77.2%) ・7月末現在の貸出冊数…3.70冊 (昨年度同時期3.46冊) ・6～7月2か月間の図書館利用の授業…34時間 (昨年度同時期56時間) (コロナ禍のため半分の日数での実績) ・カルチュラルラーニングもコロナ禍の影響で実施できなかったが、代替案を模索中。	B	・授業アンケートは7月及び11月に実施。研究授業は11月の芳泉コミュニケーションデーを中心に実施した。 ・教員自己評価アンケート「学習スタンダードを意識して、授業づくりを行っている」への肯定的回答…77.0% (昨年と同様) ・12月末現在の貸出冊数…7.1冊 (昨年同時期7.0冊) (コロナ禍のため2か月少ない日数での実績) ・12月末現在の図書館を利用した授業時間数…103時間 (昨年同時期151時間) (コロナ禍のため2か月少ない日数での実績) ・カルチュラルラーニングもコロナ禍の影響で実施できなかったが、代替案を模索中。	B	・学習スタンダードを意識した授業については、十分に浸透した教員の意識は高まったとみている。今後は学習スタンダードを生徒が見たり、聞いたりする機会を増やしていきたい。 ・図書館の利用については、コロナ禍の影響で期間が短くなっている。朝読書の中止、ビブリオバトルの中止、ブックハンティングなどの図書館行事中止等とのことがあるにもかかわらず、新規で授業に利用したり、総合的な探究の時間での生徒への図書貸出、土曜講座、ティーランド、グローバルワークショップ等での利用なども見られた。また、iPadなどのICT機器の利用が進んでおり、今後のICT活用の広がりにもつながると考えている。 ・カルチュラルラーニングは結局コロナ禍の影響で、教務課としての実施はできなかった。
情報企画	情報企画	・本校で実現可能な反転授業・個別学習システム・デジタル採点の形態について研究し、各教科と相談する。実施できるものから取り入れていく。	・Windows7のサポート終了対応に伴い、現状の環境を維持することに撤したが、取組が生徒にどのようにフィードバックされているかが把握しきれていない。	・授業アンケート(教員)「ICT機器が効果的に活用できている」の評価点が3.5以上となる。 ・ICT機器を活用することで授業での対話や議論が深まったかどうかをアンケートで調査し、肯定的な回答の割合が80%以上となる。	・G-Suiteの導入とGIGAスクール構想の前倒しにより、ICT化が一気に進むこととなった。全教職員に配布されるiPadを前に現在73台のiPadがすべて稼働中であり、また全H/R教室にWi-Fiルータを設置するなど校内でできる範囲でのインフラ整備を進めた。授業アンケート(教員)でのICT活用評価点は3.0にとどまっておらず、急ピッチで進んだICT化と回線状況などが原因と考えられる。研修など課内で行える範囲の対策を考へていきたい。生徒の声は学校アンケートで集約する予定。	B	・学校アンケートの「ICTを活用した授業を実践している。」について肯定的な回答の割合が教員は94.4%だったことに対し、生徒は66.8%にとどまった。教員としては新しい機器やシステムを積極的に取り入れた1年だったが、生徒たちにとっては機器の故障や通信エラーなどがこちらが思っている以上に気になっているのではないかと思われる。	B	・G-Suite、一人一台端末、GIGAスクール回線などを利用した授業の推進を進めた一方で、ネットにつながらない、機器が反応しないなどの細々としたトラブルが出ていた。生徒たちが困っていることをできる限り集約し、必要に応じてガイダンスなど開く。トラブルが起きた際の代替案を用意するなど対策を講じて、生徒教員ともに満足度の高いICT活用を企画・推進していきたい。
学力向上推進委員会	学力向上推進委員会	・教科で学習スタンダードを活用した授業を実施する。	・昨年度、学習スタンダードを意識した授業をほぼ毎時実施できた教員が61%であった。	・ほぼすべての教員が、教科で作成した学習スタンダードに基づいた授業をほぼ毎回の授業で行うことができた。	・学習スタンダード(育成したい資質・能力)をICTの活用を取り入れたものを追加するなど内容を更新し、生徒、保護者に文書で通知(7月の定期考査②の通知表に同封)、教室掲示し周知した。生徒による授業アンケートの集計によると、「学習スタンダードに基づいた活動が取り入れられている」の教科全体の平均が3.49点/4で、「思考が深まる問いかけがあり、考える時間がある」(3.51点/4)に次いで2番目に高い評価であった。なお、今年度前半の教育活動の振り返り(4～5月の臨時休業中の教科指導とICTの活用)に関するアンケートを実施し、集約した回答を8月職員会議資料に掲載し、全校職員で共有した。	B	・教科の学習スタンダードを意識した授業の取組状況(授業改善アンケート結果より) … ほぼ毎時実施した… 60% … 単元または定期考査ごとに1回は実施した… 32% ・ICTおよび学習スタンダードを意識した芳泉コミュニケーションデー(公開授業)の1ポイント学習指導案(簡易学習指導案)の作成状況(授業改善アンケート結果より) … 作成した… 87%	B	・育成したい資質・能力に基づいて作成した教科の学習スタンダードを意識した授業を、ほぼ全員の教員が実施することをできた。 ・授業改善、定期考査の作問において、自身のためになったこととして、「他の教員の授業参観」を挙げる教員が1番目に多く(授業改善アンケート結果より)、次年度に多く学習スタンダードを意識した授業づくりを引き続き推進していきたい。 【評価委員】 ICTを活用した授業スタイルを確立していく時代になっており、いかに効果が上がるか、いかに実質化していくかという観点から、生徒の身になる活用方法の研究を進めてほしい。
生徒が主体的に企画・運営する教育活動の推進	生徒課	・社会(SDGs等)と学校を対比させ、問題や課題を明らかにした上で、主体的に行事(蒼碑祭)を計画、運営させる。 ・社会生活と学校生活を対比させ、LHR、各種委員会、部活動で取り組ませる。	・学校生活に基づいたものだけでなく社会問題にも目を向け、社会と関わりがある課題解決(SDGs等)に向けた対話や議論、協働を充実させ計画や活動に取り組ませる。 ・自己の感覚だけでなく、社会人として通用する行動や活動に取り組ませる。	・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合 「蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた」90%以上 「安心して登校できる学校である」90%以上 「サイクルマナーについて理解し、行動できた」90%以上 ・年間交通事故件数30件以下 ・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導件数0件	・学校生活アンケートは今後実施されるので年度末に。 ・交通事故4件(昨年度8件) ・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導件数…0件(昨年度0件) ・不愉快な思いをし、要観察中の人数…4件(昨年度8件) ・蒼碑祭は例年までとは大きく異なるが生徒会執行部を中心に、主体的に計画・準備が行われ実施できた。	B	・学校生活アンケート 「蒼碑祭を通して自分の成長を感じ、満足できた」96.0% 「安心して登校できる学校である」97.8% 「サイクルマナーについて理解し、行動できた」91.3% ・交通事故16件(昨年度18件) ・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導件数…0件(昨年度0件) ・不愉快な思いをし、要観察中の人数…6件(昨年度10件)	A	・蒼碑祭については、コロナ禍の中、適切な対応ができ、自覚をもっと楽しむことができた結果である。形態は柔軟な対応が必要である。 ・学校生活については、「いじり」の程度が問題である。LHRに加えて①の自己評価で「共感力」を養い、周囲を安心させる言動につなげる。 ・交通マナーについても、①の自己評価項目に加える。また、岡山市条例の変更に合わせて、自転車保険の加入について保護者に通知し、通学届出書で確認する。
保健安全課	保健安全課	・LHRや委員会活動を充実させ、生徒が主体的に企画運営する行事を通じて達成感や満足感を味わせる。 ・保健LHRや日常の清掃活動の充実をはかり、防災訓練を実施する。	・昨年度の学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合 「自ら校内美化に努めている」61.7% 「避難訓練を通じて防災に対する意識が向上した」62.2% ・保健LHRの充実をはかり、保健委員主導で実施する。 ・清掃用具を充実して、生活委員を中心に清掃点検を実施。 ・防災訓練を2回実施し、生活委員主導で危機管理意識を高める。	・生活委員、保健委員へのアンケートの肯定的回答の割合 「委員会活動を通じて達成感や満足度を得ることができた」85%以上 ・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合 「自ら校内美化に努めている」70%以上 「避難訓練を通じて、防災に対する意識が向上した」70%以上	生活委員会として ・清掃用具の点検を行い補充・交換を行った。 ・美化意識を高めるために一人1枚つつ啓発ポスターを作成し掲示した。 ・清掃点検を行い、日々の清掃が十分に行えるようになった。 ・新型コロナウイルスの関係で避難訓練はできなかったが、防災テストを実施して生徒の防災意識を高めた。 保健委員会として ・保健委員主導型の保健LHRでは全校生徒に「熱中対策」と「救命救急法」について知識の習得ができ、危機管理意識の向上を図ることができた。大変効果的な保健指導の実践ができた。 ・手指消毒薬の点検補充・アルコール液の補充やウォータークーラーの点検など定期的に行うことができた。	B	・生活委員、保健委員へのアンケートにおける肯定的回答(「達成感・満足度」) 生活委員は83.3% 保健委員は85% ・生活委員が中心となり防災LHRを実施して意識の向上を図ったが、様々な制約から通常の訓練ができなかった。 ・保健委員は、保健LHR、蒼碑祭展示、デジタル教材推進活動など活発に活動でき、消毒液・石鹸液の補充や換気の呼びかけ等も自主的に頻回に行うことができた。 ・学校評価アンケート結果 「自ら校内美化に努めている」 生徒：69.4% (昨年度61.7%) (保護者：78.4% (昨年度78.9%)) 「防災訓練を通じて、防災に対する意識が向上した」 生徒：52.9% (昨年度62.2%)	B	・行事予定の変更があったにもかかわらず、委員会生徒へのアンケートには「満足感・達成感」が高く、自主的に校内の美化活動や生徒の健康管理に関わろうとする意識も高まったようである。 ・学校アンケート(生徒)の「防災意識の向上」の項目については、数値を下げてしまった。来年度は状況(新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況)に合わせて、防災訓練の内容や取り組み方を考えてゆきたい。 ・次年度も本校の健康課題に応じて、デジタルコンテンツを活用しながら保健LHRを実施したい。 【評価委員】 近年の県内での水害、先日の東北での地震を考えると、生徒の防災意識向上と行動変容にぜひ取り組んでほしい。従前のルール下での防災訓練ではなく、コロナを前提した3密を避けた訓練、地震で帰宅できない場面への対応など、

②対話や議論を通じ、多様な人々と協働する力

手立て	担当	具体的方策	昨年度までの状況(課題)と改善の方向性	評価Aの基準	中間期取組結果	中間評価	最終取組結果	最終評価	結果の分析及び改善方策	
生徒が主体的に企画・運営する教育活動の推進	1年団	・蒼碑祭や球技大会などの学校行事で、生徒に主体的に企画・運営に取り組ませる。 ・委員会等、HRでの役割を主体的に取り組ませる。	・昨年度も、蒼碑祭では例年と違う日程を、生徒主体で準備できた。 ・昨年までの実施方法に大きな問題は見られない。引き続き、外部講師からの事前課題に生徒が準備をして会に臨むという手法をとり、生徒の積極的な参加を促したい。	・蒼碑祭や球技大会で、生徒が主体的に企画・運営に取り組んだ。 ・生徒がHRでの役割を自覚し、責任を持って主体的に活動することができた。	・新型コロナウイルスの影響で縮小した形での蒼碑祭であったが、それぞれのクラスで工夫して準備を進めた。感染予防対策を取りながら、何ができるかを生徒達自身で考え、可能な範囲で取り組むことができた。	B	・蒼碑祭では、感染症対策も含め、短い準備期間で計画的に活動に取り組むことができた。完成した作品も工夫が見られ、完成度が高かった。 ・球技大会では感染症対策に気をつけながら、生徒の主体的な運営のもとに実施できた。 ・委員会でのLHR運営など、その職責をきちんと果たすことができた。	B	・与えられた仕事を条件に合うように工夫する力があると思われるが、人間関係作りにおけるコミュニケーション能力などには幼い部分もある。担任等が適切に関わりながら成長を促すよう指導したい。	
	2年団	・修学旅行や蒼碑祭などの学校行事において、様々な変更に対応し、生徒が主体的に企画・運営に取り組ませる。		・学校行事等の変更への対応がスムーズに行え、それぞれの活動でリーダー的存在として活躍できた。	・蒼碑祭では、制限のある中、各クラスが工夫・協力し、動画作成に取り組んだ。	B	・修学旅行が中止となり、代替行事を行ったが、それぞれの活動で生徒が適切に対応し、有意義な取り組みとなった。	B	・生徒がより主体的に行事の企画・運営に取り組めるような指導の工夫を考えていきたい。 【評価委員】 この項目だけではなく、行事中止決定のプロセスに生徒がどう関わるか、また中止ならば中止でのアンケートをとってみる、これらによっても生徒の意識変化につながるのではないかと。	
	3年団	・蒼碑祭などの学校行事に取り組み、生徒が主体的に企画・運営を行う。		・昨年度も、蒼碑祭では例年と違う日程を、生徒主体で準備できた。	・蒼碑祭において、新しい取組のモデルを示した。	・初のジップアリーナでの競技やグループパフォーマンスで、伝統を受け継ぎつつ、新しい取組を発表することができた。	A	・各クラスが今までの仮装と違った大道具のない発表のあり方を考えた。物語風のストーリーの中で、パフォーマンスによるメッセージ性の高い発表ができた。	A	・ジップアリーナの使用方法などルールの徹底について議論した方がよい。また学習や推薦の指導の流れの妨げにならないよう準備日程を設定することが必要となる。
	グローバル人材育成推進委員会	・グローバルワークショップやグローバル講演会など、外部講師の指導を受けながら、生徒どうしが議論や対話を通して学習できる機会を設定する		・昨年度の実施方法に大きな問題は見られない。引き続き、外部講師からの事前課題に生徒が準備をして会に臨むという手法をとり、生徒の積極的な参加を促したい。	・行事後の生徒のアンケート結果で、80%程度の生徒が高評価をする	・10月実施予定のグローバル講演会(2年次)については、すでに生徒の実行委員も決まり、当日に向けて準備が始まっている。 ・夏季休業中に実施していたグローバルワークショップについては、講師の方との日程調整を試みたが、今年は実施を見送ることになった。	B	・2年次対象グローバル講演会は、立候補した生徒実行委員が、講師から指導を受けながら、プレゼン準備を行い、当日見事な発表を行った。生徒の肯定的な評価は8割を超えた。グローバルワークショップについてはコロナ禍に伴う状況の変化のため講師との日程調整ができず実施を見送らざるを得なかった。	B	・講師に来校してもらって代わりに、オンラインでの講演を体育館で実施するという新たな試みができ、ハード面での問題なども明らかになった。今後同様の行事を行う際の反省としたい。

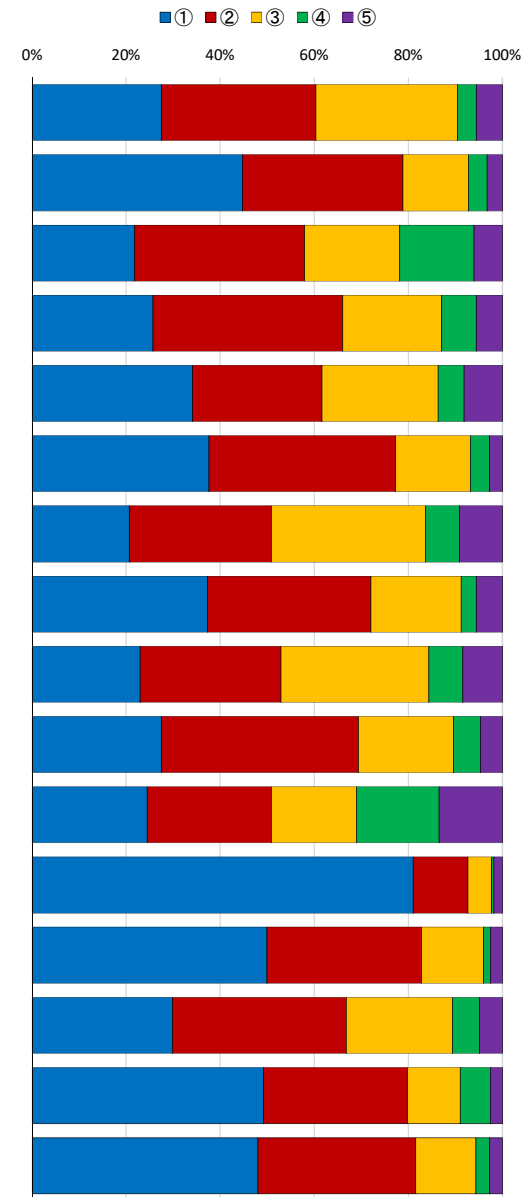
③先人の考えを理解し、社会との関わりを持って新しいものを創造する力

手立て	担当	具体的方策	昨年度までの状況(課題)と改善の方向性	評価Aの基準	中間期取組結果	中間評価	最終取組結果	最終評価	結果の分析及び改善方策
社会との関わりを意識した「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発	教務課	・高大接続推進委員会と連携し、「総合的な探究の時間」の組織的な運営を進める。	・3年前から高大接続推進委員会により、探究活動を重視したカリキュラムで進められているが、そのことを話し合っ社会に向けて発信したりする生徒は5%以下である。	・「総合的な探究の時間」について、組織的に運営、実施できる体制が完成する。	・高大接続推進委員会と連携して「総合的な探究の時間」の運営ができています。コロナ禍の影響の中でも柔軟な対応ができています。	B	・高大接続推進委員会で企画した内容をもとにして、「総合的な探究の時間」実施の取りまとめをすることができた。	B	・以前の年次担当者が企画、運営のほぼすべてを引き受けていたことを考えると、年次を超えて全体的、体系的に取り組める形ができあがったと言える。今後も年次との連携を一層進めていきたい。
	高大接続推進委員会	・国際バカロレアの教育手法を参考にした「社会に向けての発信」を重視した「総合的な探究の時間」のカリキュラムを作成する。	・生徒は自分たちをとりまく社会の課題について関心を持つようになってきているが、そのことを話し合っ社会に向けて発信したりする生徒は5%以下である。	・「総合的な探究の時間」を通じて関心を持った分野に応じて、懸賞論文の応募、シンポジウムへの参加、地域社会と協働した取組などを実践する生徒が30%を超える。	・新型コロナウイルスのため授業日数が確保されず、「総合的な探究の時間」による探究学習よりも教科の基礎学習が優先されたこと、「総合的な探究の時間」が対話を中心とする授業展開でもあったことから、休校中は計画通りに進まず、6月に降に取り組みすることとなった。その中でも懸賞論文への応募は進めており、応募総数は100名強(1年次50名程度、2年次30名程度、3年次30名程度)になる予定である。一方、地域社会との交流は実施しづらい状況である。	B	・「総合的な探究の時間」による課題研究を進めることができ、対話を中心とする授業も幾分か展開することができた。こうしたことから、懸賞論文への応募は進めており、応募数は1年次50名程度、2年次30名程度、3年次50名程度であった。また、学校紹介ビデオを生徒対象にコンペをし、3年次の優勝グループが作成するといった取り組みも行い、社会との関わりを意識した教育を行うようにした。しかし、社会と関った活動がほとんどできなかった。	B	・地域社会と関わりを実感できる取り組みを研究する。 【評価委員】 探究活動は、生活や地域の中の課題を発見し解決方法を考え実践から次の課題を探究するプロセス(PBL)が大切で、生徒が問題意識を持っているような展開を期待する。評価指標に新聞の活用を含めてはどうか。
収集した情報をもとに、広く考察・思考する態度の育成(新テスト対策)	進路指導課	・来春の新テストを見据え、実力考査で、思考力・判断力・表現力をはかる問題を教科の協力を得て作成及び検証を行う。	・1・2年次の国数英の実力考査において思考力・判断力・表現力をはかる問題を1回以上出題し、本校生徒の対応する力を分析する。	・各教科に依頼しており、計画的に実行できている。	・各教科に依頼しており、計画的に実行できている。	B	・全学年・全科目の実力考査において思考力・判断力・表現力をはかる問題を出題したが、学力上位者でも苦手になっている者が多かった。	B	・3年次は入試結果と合わせて分析を行う。 ・出題方法について情報収集及び研究を行う。
	学力向上推進委員会	・新テストを見据え、定期考査で、思考力・判断力・表現力をはかる問題を作成及び検証(評価)を行う。	・昨年度、新テストを意識した作問(思考力、判断力、表現力を測る問題)をほぼ毎回の考査で実施した教員が45%、1回は実施した30%であった。	・定期考査実施後、教科内の他の教員全員に問題用紙を互いに配布し、新学習指導要領についての共通理解、新テスト対応(思考力・判断力・表現力)問題の共有を図るよう依頼し、教科で研究を進めている。	・今年から始まる大学入試の新テストに向けて、新テストの傾向を意識した作問(思考力、判断力、表現力を測る問題)の取組状況(授業改善アンケート結果より) ・ほぼ毎回の定期考査で実施した … 56% ・1回は考査で実施した … 19%	B	・今年から始まる大学入試の新テストに向けて、新テストの傾向を意識した作問(思考力、判断力、表現力を測る問題)の取組状況(授業改善アンケート結果より) … 56% ・1回は考査で実施した … 19%	B	・新テストの傾向を意識した作問を、「1回以上定期考査で実施した」74%(昨年75%)で昨年とほぼ同数であったが、「ほぼ毎回の考査で実施した」教員が増加(昨年度45%→今年度56%)しており、少しずつではあるが作問研究が進んでいるといえる。 ・授業改善、定期考査の作問において、自身のためになったこととして、「他の教員の考査問題」を挙げる教員が2番目に多く(授業改善アンケート結果より)、今年1月に実施される大学入学共通テスト問題を踏まえ、これまでの取組を検証するとともに、次年度以降も教科で考査問題の共有を引き続き行い、作問能力のさらなる向上を図っていきたい。

# 令和2年度学校評価アンケート集計結果【生徒】

①当てはまる ②やや当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤当てはまらない

質問項目	%					①+②
	①	②	③	④	⑤	
(1)本校の教育は「気宇広大で包容力の大きな人間の育成」を目指したも のになっている。	27.5	32.9	30.1	4.0	5.5	60.3
(2)学習到達度別授業は、学力向上に役立っている。	44.8	34.0	14.0	3.9	3.2	78.8
(3)目標として掲げた家庭学習時間を確保している。	21.8	36.1	20.2	15.8	6.0	58.0
(4)課題の内容は適正であり、学力向上に効果的である。	25.7	40.3	21.1	7.3	5.5	66.1
(5)部活動の練習日程は適切に計画されている。	34.1	27.6	24.7	5.5	8.1	61.7
(6)学校は面談等を通じて個に応じた進路指導をしている。	37.7	39.7	15.9	4.0	2.8	77.3
(7)社会貢献活動を通じて自分の成長を感じ、満足できた。	20.7	30.2	32.7	7.3	9.1	50.9
(8)サイクルマナーについて理解し、行動できている。	37.4	34.7	19.2	3.2	5.5	72.1
(9)避難訓練等を通じて、防災に対する意識が向上した。	23.0	29.9	31.5	7.2	8.4	52.9
(10)自ら校内美化に努めている。	27.5	41.9	20.2	5.7	4.7	69.4
(11)メモルーを有効に活用している。	24.5	26.4	18.1	17.5	13.4	50.9
(12)いじめや体罰に悩むことはなく、安心して学校生活を送っている。	81.0	11.6	5.1	0.5	1.8	92.7
(13)蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた。	50.0	32.9	13.2	1.4	2.6	82.8
(14)ICTを活用した授業が多く、理解に役立っている。	29.8	37.0	22.6	5.7	4.9	66.8
(15)学校からの保護者宛文書をきちんと保護者に渡している。	49.2	30.6	11.2	6.4	2.6	79.8
(16)岡山芳泉高校での学校生活に満足している。	48.0	33.6	12.8	3.0	2.7	81.6

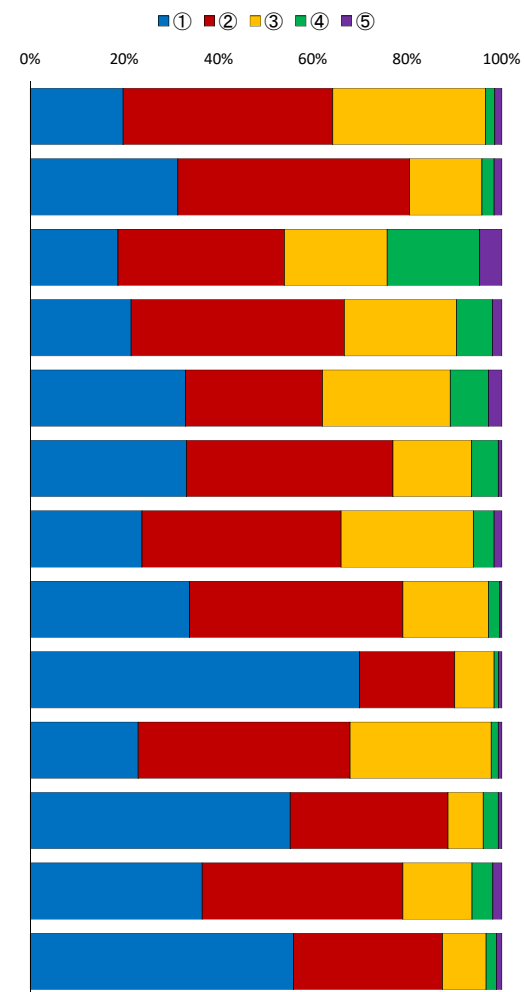


評価点		
R02	R01	H30
3.6	3.4	2.4
5.7	5.4	5.3
2.6	2.3	1.5
3.7	2.9	2.2
3.7	3.0	2.8
5.3	5.6	5.2
2.3	3.9	3.0
4.8	4.9	4.0
2.6	3.7	3.1
4.1	3.4	3.1
1.5	2.5	1.8
8.5	8.5	7.8
6.3	6.3	-
4.1	-	-
5.9	6.0	5.3
6.1	5.4	5.1

## 令和2年度学校評価アンケート集計結果【保護者】

①当てはまる ②やや当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤当てはまらない

質問項目	%					①+②
	①	②	③	④	⑤	
(1)本校の教育は「気宇広大で包容力の大きな人間の育成」を目指したも のになっている。	19.7	44.5	32.4	2.0	1.5	64.2
(2)学習到達度別授業は、子どもの学力向上のために効果的に行われて いる。	31.4	49.1	15.3	2.6	1.6	80.5
(3)子どもは、目標として掲げられた家庭学習時間を確保している。	18.6	35.3	21.8	19.6	4.7	53.9
(4)課題の内容は適正であり、子どもの学力向上に効果的である。	21.4	45.2	23.8	7.6	2.0	66.7
(5)部活動の練習日程は適切に計画されている。	33.0	29.0	27.1	8.1	2.8	62.0
(6)学校は、進路情報を適切に提供している。	33.2	43.8	16.7	5.6	0.7	77.0
(7)学校は、交通のルールやマナーについて、きちんと指導している。	23.8	42.2	28.1	4.4	1.6	65.9
(8)学校は、校内美化に努めている。	33.8	45.2	18.1	2.5	0.4	79.0
(9)子どもは、いじめや体罰に悩むことなく、安心して学校生活を送ってい る。	69.9	20.2	8.3	1.0	0.6	90.1
(10)学校は、PTAと連携した教育活動を行っている。	22.9	45.0	29.9	1.5	0.7	67.9
(11)学校からの連絡が、メール配信などによって伝わっている。	55.1	33.5	7.5	3.2	0.7	88.6
(12)子どもは、学校生活に充実感や満足感をもつことができている。	36.5	42.5	14.7	4.4	1.8	79.0
(13)岡山芳泉高校は、喜んで通わせたい学校である。	55.9	31.6	9.2	2.2	1.1	87.5



評価点		
R02	R01	H30
4.0	4.4	4.2
5.3	5.4	5.4
2.2	1.5	1.5
3.8	3.2	3.6
4.1	3.7	3.6
5.2	4.7	4.9
4.1	4.0	4.3
5.5	5.2	5.3
7.9	7.8	8.0
4.4	4.7	4.8
7.0	5.1	6.2
5.4	5.2	5.5
6.9	6.5	6.6